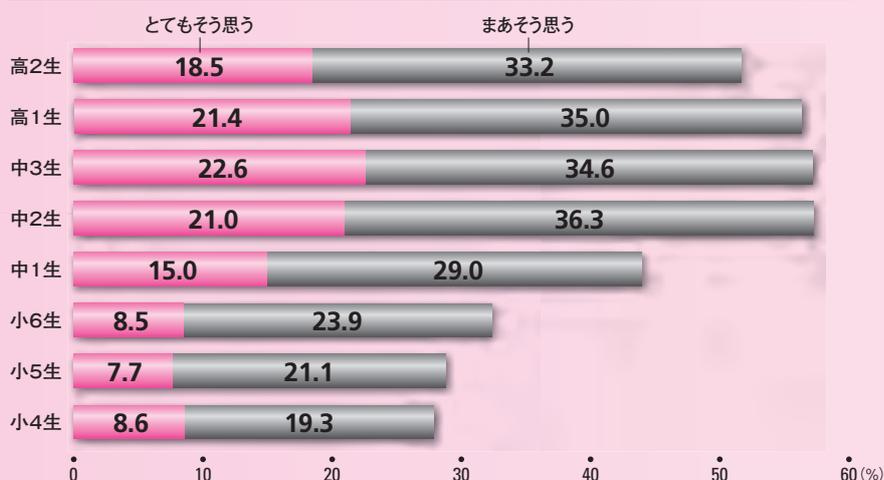


高校教育の 使命

学びに向かう生徒を育てる

学びに向かう生徒を育てることは、学校教育の不易の課題だ。
教育環境が変化する中で、高校教育がこの課題に取り組むため、何をすべきかを考える。

Q. 「どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」



Benesse教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」(2009年)

中高生の約半数が、なぜ勉強しなければならないのかと疑問に思い、「学び」を否定的にとらえている。
特に、中2生、中3生、高1生の数値が高い。

1

「学習意欲の低下」が課題

【 P.6 現状把握 】

生徒の実態

- ◎家庭学習時間は2004年に比べて中堅校で増え、改善の兆し。ただし、進学校の学習時間は減少。
- ◎「将来、なりたい職業」がある子どもが、全体的に減少。

高校教師の意識と期待

- ◎指導上、大きな課題の1つは、「生徒の学習意欲の低下や生徒間の学習意欲の格差」。
- ◎「学び」を軸にした高大連携や、大学教育の中身の充実への期待が大きい。

2

生徒が学びに向かう「高大接続」とは何か

【 P.8 インタビュー 】

独立行政法人大学入試センター 試験・研究副統括官

荒井克弘



◎大学入試以外の手段で、学習意欲を高める方法が必要

◎各校が自校の使命を明確にし、その多様性を生かす制度設計が必要

◎公立高校の授業料が無償化（私立高校への就学支援）される中、教育の質を保障し、教育にかかるコストを無駄にしないための抜本的な見直しが必要

3

生徒のために高校教育が果たすべき使命

【 P.10 現場からの提言 】

岩手県立久慈高校副校長

鈴木晃彦

愛知県立御津高校校長

水野謙二

鹿児島県立川辺高校校長

神田芳文

高校が抱える課題は何か

- ◎「挑戦したくなる」仕掛けを用意しているか
- ◎自信を持たない生徒を「是認」していないか
- ◎「学びの感動」を与える授業が出来ているか

生徒とどう向き合うか

- ◎目先の評価ではなく、「1年先の感動」を見通した指導
- ◎自信を持たない生徒に夢を持たせる
- ◎生徒の未来に対して責任を担う

学校、教師はどう変わることが出来るか

- ◎「自信を持たせる指導」が分断されず、連続して存在することが大切
- ◎質の高い授業が出来れば、進路指導も生活指導もうまくいく
- ◎先を見通した仕事で、生徒と向き合う時間を生み出す